

<ちょこっとコラム 57>

(礼拝用語 その⑦)

近づきの祈り

陪餐の直前、主の祈りを唱え、司祭がパンを割いた後に、全員で唱える祈りを「近づきの祈り」と呼びます。この祈りは、1637年のスコットランド祈祷書から採られており、もともとは1549年の克蘭マーによる第一祈祷書に入れられたものです。1959年祈祷書より一同で唱えています。現祈祷書（1990年）では、その後の「神の子羊の歌」と同様、用いても用いなくてもよいことになりました。この時点でわたしたちは既に喜びの主の食卓に招かれているため、ここでまたあまりに個人的な謙遜な祈りをするとは、聖餐式全体の流れを損なうという議論もあります。